

大学生がアルバイトに求める条件とは

—職業選択動機と承認欲求に着目して—

1621268 松山尚輝

Key words: アルバイト, 職業選択動機, 承認欲求

目的

近年、多くの大学生がアルバイトに従事している。これまでの大学生のアルバイトに関する研究の多くは、アルバイトが大学生に与える影響について着目した研究が多く、大学生がアルバイトを選択する際の要因に着目した研究は少数に留まっている。そこで本研究では、大学生がアルバイトに求める主たる要因と考えられる「給料」と「人間関係」の2点に着目し、大学生はどちらをより重視するのか、個人の持つ職業選択動機及び承認欲求に着目して検討した。

方法

手続き 調査参加者は大分大学の学生 194 名（男性 91 名、女性 101 名）、平均年齢 19.51 歳 ($SD=1.08$) であった。質問紙法を用い、大学の講義中に配布し、その場で回答を求めた。

質問紙の構成 調査参加者は個人属性（性別、年齢、学年、学部）、職業選択動機尺度（江塚, 2011）、日本版 MLAM 承認欲求尺度（植田, 1990）、アルバイトに関する場面想定シナリオに回答した。シナリオは、被験者間で時給条件（良 / 悪）、被験者内で人間関係条件（良 / 悪）の 4 条件を作成した。その後、どの程度シナリオのアルバイトに興味を持ったか、オリジナルの質問項目を用い、回答を求めた。

結果

尺度の分析 職業選択動機尺度について最尤法プロマックス回転による探索的因子分析を行った結果、他者への貢献 ($\alpha=.90$)、他者からの評価 ($\alpha=.80$)、充実感 ($\alpha=.84$)、ゆとり ($\alpha=.85$) の 4 因子が抽出された。日本版 MLAM 承認欲求尺度 ($\alpha=.75$) は先行研究と同様に一因子構造を採用した。

2 要因分散分析 人間関係（良 / 悪）を被検者内、給料条件（良 / 悪）を被検者間に配置した 2 要因分散分析（混合計画）を行った。その結果、人間関係 ($F(1,189) = 145.92, \eta^2 = .44, p < .01$)、給料条件 ($F(1,189) = 579.76, \eta^2 = .76, p < .01$)、およびそれらの交互作用 ($F(1,189) = 36.30, \eta^2 = .16, p < .01$) が認められた (Figure 1)。

階層的重回帰分析 アルバイト選択動機（人間関係良 / 悪）を従属変数とし、独立変数は Step1 で個人属性、給料条件、職業選択動機、Step2 で給料条件と職業選択動機の交互作用項を投入した階層的重回帰分析を行った。人間関係が良い場合は、Step2 で有意な説明率の上昇が認められなかったため、Step1 を採用した ($R^2=.45, p < .01$)。人間関係が悪い場合は、Step2 において、有意な説明率の上昇が認められた ($\Delta R^2=.05, p < .05$)。アルバイト選択と職業選択動機の関係については、アルバイト先の人間関係が悪い場合には、職業選択動機の「他者からの評価」を重視するほど給料は良い方に興味を持つという傾向が明らかとなった ($\beta=.19, p < .05$)。一方、承認欲求とアルバイト選択の人間関係の間に関連は認められなかった (人間関係良: $\beta=.01, n. s.$, 悪: $\beta=.03, n. s.$)。

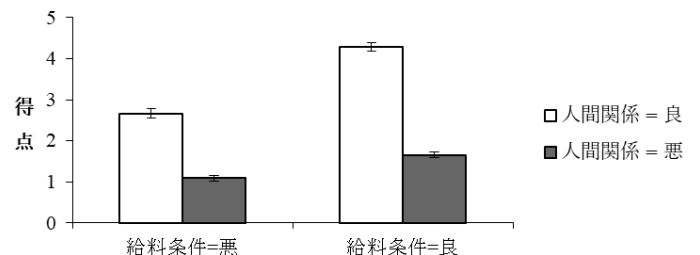


Figure 1 アルバイト選択動機における人間関係と給料条件の交互作用

考察

本研究の結果から、大学生は人間関係が良く、給料が高いアルバイトを選択することが明らかとなった。また、時給と人間関係のどちらを重視するのかについては、人間関係の情報の曖昧さが原因で、大学生は時給より人間関係に関心が向いた可能性がある。さらに、大学生はお金を稼ぐことで、他者からの評価を十分に得ることができれば、アルバイト先の環境についてはあまり考慮しない傾向があることも明らかとなった。一方、アルバイト選択と承認欲求の関連は認められず、承認欲求尺度の内容に関しては今後検討の余地がある。

引用文献

江塚 乃 (2011) 職業選択動機尺度の開発 早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 18 号—2, 13–19